

一筆啓上

# 作左通信



第一〇一号 令和二年三月一日(日)発行

## きっかけは、学芸会!!

### 「作左の会」発足のルーツを探る

「一筆啓上・作左の会」は、平成十一年十二月二十六日に発足し、ちょうど二十年が経過しました。今回は、その発足のルーツを報告します。

六ツ美西部小学校が平成九年四月に開校し、当時六年生を担任された堺 正司先生から詳しく教えていただきましたので、その状況を記述します。

①着任当時、本多作左衛門の生誕の地が宮地町であることを知った。作左衛門の人となりについては、昭和五十八年のNHK大河ドラマ「徳川家康」で知った。

(主演は滝田 栄)

②着任したその年の学芸会で作左衛門をテーマに取り上げた。当時、多くの報道関係者の取材を受け、話題になった。

③その話題が作左衛門の終焉の地、茨城県取手市でも話題となり、取手市から招待を受けた。

④その後、総代会の方々の懇親の席で、これを「学区の町おこし」として活用できないかとの話題になった。

⑤これを契機とし、総代会主導で「一筆啓上・作左の会」が町おこしの会として誕生した。

以上が、発足の経緯でありその後二十年、多くの方々のご努力とご協力により活動も充実し、現在に至っております。

そこで発足当時の思い出を六年生の担任であり、「作左の会」のメンバーでもあった堺 正司先生に書いていただきました。



平成九年度学芸会「三河武士、本多作左衛門」の様子

※裏面に、当時の新聞記事が掲載されています。

六ツ美西部小学校が開設された平成九年度、本多作左衛門を学芸会で行うにあたり、どの場面を取り上げ、衣装はどうするのか、当時の六年三組(現在三十二歳)の子たちと何度も話し合い、苦勞して作り上げていったことを今でも鮮明に覚えています。学芸会当日(当時は三学期)、多くの保護者や地域の方で体育館がいっぱいになり、たくさん取材も入ってすぐくうれしかったです。

平成十一年、「作左の会」が発足しました。活動の一つとして、「作左通信」を発行することになり、第一号を作成するのに大変悩みました。先日、会長の山田さんから、冊子になった作左通信を見せていただきました。今回が一〇一号ということで、ずっと続いていることに驚き、感激しました。

また、作左衛門が亡くなった取手市に当時の会長の石川保夫さんと出かけ、取手の子たちが作左衛門の劇を演じていた市民会館で紹介されたり西部小での学芸会が埋蔵文化財センターで展示されたりしていました。

以後、作左の会が「ふるさと賞」の創設や写真史の発行など、作左の会の活動がこの二十年で、すごく充実してきていると思います。今後も作左の会がますます発展されることを心から祈っています。

堺 正司

六ツ美西部小学校 平成九年度～十六年度勤務  
現 岡崎女子短期大学付属職(ふたば)幼稚園園長

# 我らが「作左衛門」

## きょう初の学芸会で披露

岡崎市六ツ美  
西部小6年3組



昨年開校した岡崎市六ツ美西部小学校の子供たちが八日、初めての学芸会で安土桃山時代に活躍した郷土の偉人、本多作左衛門の劇を披露する。

演じるのは、六年三組の三十八人。劇は作左衛門にまつわるエピソードを脚色した内容で、羽織袴姿となった子供たちは「武士言葉の言い回しが難しい」と悪戦苦闘しながらも、本番前の最後の仕上げも終えた。題目は「三河武士、本多作左衛門」。学区内の宮地

劇「本多作左衛門」の練習をする子供たち＝岡崎市六ツ美西部小学校で

町に生まれた作左衛門は、若き日の徳川家康に忠義を尽くし、留守となった岡崎城をまかされるまでの信頼を得ていた。だが、家臣の企てにより当時天下を治めていた豊臣秀吉の怒りにふれ、上総国へ追いやられてしまうというストーリー。

舞台練習では、なかなか台詞を思い出せず真っ赤になったり、大きな声が出ず悔しそうな表情をする子供もおり「本番では緊張しないようにしなくては」と反省気味。それでも「徳川のために一生懸命尽くした作左衛門のように、何事にもしっかり取り組みたい」と意欲満々だ。

担任の堺正司教諭(三)は「作左衛門は『一筆啓上火の用心』の手紙でも有名。妻や子供を大切に、精一杯働いた姿から何かを学んでくれれば」と話している。



チョンマゲ姿で熱演する六西小の児童たち

学区ゆかりの

## 本多作左衛門の半生

劇にして披露

### 六西小が初の学芸会

侍女たちの計らいで名譽は回復したものの秀吉の怒りが残った。

六ツ美西部小学校（渡辺 戦功をあげ、三河一向一揆 勝英校長）六年三組の児童 平定後は高力清長、天野景 らは、主君家康に尽くした 康らとともに最初の奉行に 三河三奉行の一人、学区ゆ かりの本多作左衛門重次

劇にしたのは、地域学習 を進めるうちに生誕碑を見 たすら主君のことを想い自 た児童が「いったいどんな 人なんだろう」と疑問を持 ったのがきっかけ。市立函 館へと移封させられるま

（一五三〇―一五九八）の 半生を描いた劇を二月八 日、同校体育館で行なわれ た学芸会で父母らに披露し ました。

の、まじめで思いやりのあ 書館の郷土資料室などで文 演しました。 この日は、昨年春に開校 した同校の初めての学芸会。 このほか劇や合唱など十五 演目が行なわれ、かけつけ たい父母たちから舞台上で奮

作左衛門は享禄三年、現 在の宮地町の生まれ。犬頭 神社の境内、社殿東脇の築 山に生誕地をしめす高さ二 尺ほどの立派な碑がありま す。七歳から広忠に仕え、 のちに家康を補佐。数々の

馬肥やせ」の手紙は簡潔で 五場面構成で、上演時間 は約二十分。家康の留守を 守る岡崎城で謀略にあい、 拍手が送られていました。



平成9年度学芸会「三河武士 本多作左衛門」の様子



「三河武士 本多作左衛門」を演じた6年2組の皆さん